

# ウィーンとカルンテンにおける 予防的検診の実験

O. Voelkel (オーストリア)

本稿には、オーストリアの一部の地区で行なわれた予防的検診の実験が概説されている。

予防的検診はしばしば発生する疾病(糖尿病、心臓疾患、がんなどのような病気)の時宜を得た発見と、それらの初期段階における治療をできるだけ可能にしようとしている。

1973年に、予防的検診のある実験計画が、オーストリア全国に予防的検診の制度を採用する以前に、そのような検診にかんする医学的な発見を可能とするために、ウィーンとカルンテンである限られた期間実施された。同時に、実験の一部に参加した医師は、これらの検診で得たかれらの経験を詳細に述べるように求められた。

本稿は実験の一部を担当した医師の反応を論述している。それらの反応は、一方におけるウィーンの都市と、他方におけるカルンテンの農村地帯の間で異なっていた。ウィーンでは、医師のうち約62%が実験に参加し、かれらの反応を寄せてくれた。かれらのうち約3分の2は一般医だったが、内科と婦人科の専門医はほぼ同数の状況を示した。

かれらのうち大部分の医師は、かれらが将来予防的検診に喜んで協力すると述べた。さらに、かれらのうち大部分の者は、検診の結果がかれらの期待に

っていたと述べた。かれらの基本的な勧告は、精密検査、レントゲン検診および電子式心電図などを含むより完全な検診であった。かれらは市民の大部分の参加を保証するために、計画に参加する人びとの利益について、情報計画を伝える広報活動を組織する必要があるということも考えている。

疾病金庫と契約している医師とより大きな診療を行なう医師は、他の医師よりもこれらの検診についてかなり多くの活動を行なったということが示されている。かれらの検診は一般医の82%、また専門医の50%では、本来の診療時間以外の特殊な診療時間に行なわれた。その場合においても、正常な診療時間に検診を行なった人びとの間では、大部分の人びとは、かれらがそれほど困難を覚えることもなく実施したと述べている。

検診を受けた人びとのうち、89%は女子で、3分の2は50歳から70歳までの人びとであった。大部分の人びとは、かれらの通常利用する医師以外の医師の所に出かけたということが明らかにされた。ウィーンでは、それらの人びとは家庭医をもっていないか、あるいは、具体的には、見知らぬ医師による検診を受けようとしたかである。しかしながら、カルンテンでは、検診を受けた大部分の人びとは、かれらの家庭医の所に出かけた。

ウィーンの医師は予防的な検診の一般的な重要性と、実験の組織化と実施のいずれについても、農村地区のカルンテンの医師よりもより高く評価していた。

この実験は国民の健康について予防的医療の重要性を、医師と同様に一般大衆に示すことができた。

Projektstudie Vorsorgeuntersuchung in Wien und Karnten, Oesterreiche Arztezeitung, No.19, 1974 pp. 1058-1063; No. 37, 74/75.